

第5次佐倉市総合計画策定にあたっての
団体意見交換会報告書

平成31年2月
佐倉市

【 はじめに 】

佐倉市は、昭和 49 年度の第 1 次佐倉市総合計画策定以来、歴史、自然、文化に恵まれた地域性に重きを置きながら、まちづくりに尽力してきました。平成 23 年度に開始した第 4 次佐倉市総合計画において、佐倉市は、『歴史 自然 文化のまち ～「佐倉」への思いをかたちに～』を将来都市像に掲げ、市民一人ひとりの「佐倉への思い」がかたちになるような取組を進めています。

平成 32 年度からの第 5 次佐倉市総合計画を策定していくに当たり、今後のまちづくりにおいて一層重要となる「市民や団体による連携・協働」の視点のもと、それぞれが新たに連携できることや今後の市政においてすべきことなどについて、市内の各種団体が業種の枠を越えて意見交換を実施しました。

■実施日時

平成 30 年 12 月 10 日（月）、12 日（水） ※両日とも内容は同じ

佐倉市役所社会福祉センター 3 階会議室（18:00～20:30）

■団体意見交換会の内容

開催に先立ち、各種団体にアンケート調査（5 頁）を実施し、団体活動における課題や今後のまちづくりへの提案について回答いただきました。

回答いただいた団体の中から、当日参加いただいた団体の代表者を 3～4 班に分け、意見交換をしていただきました。意見内容については、第 5 次佐倉市総合計画策定の検討材料とさせていただきます。

■団体意見交換会の参加団体一覧（五十音順）

平成 30 年 12 月 10 日（20 団体 21 名）	平成 30 年 12 月 12 日（14 団体 14 名）
①一般社団法人佐倉市建設業防災協会	①内郷地区長連合協議会
②一般社団法人千葉県建築士会 佐倉支部	②公益社団法人印旛郡市歯科医師会佐倉地区
③印旛地区自閉症協会 佐倉支部	③さくらケアマネ協議会
④印旛沼環境団体連合会	④佐倉市校長会
⑤鹿島川土地改良区	⑤佐倉市社会福祉施設協議会
⑥公益社団法人佐倉市シルバー人材センター （2名参加）	⑥佐倉市商店会連合会
⑦公益社団法人佐倉青年会議所	⑦佐倉市青少年育成市民会議
⑧さくらケアマネ協議会	⑧佐倉市手をつなぐ育成会
⑨佐倉市管工事協同組合	⑨佐倉商工会議所
⑩佐倉市高齢者クラブ連合会	⑩佐倉西部地区町内会長等協議会
⑪佐倉市精神障害者家族会かぶらぎ会	⑪佐倉地区医師会（公益社団法人印旛郡市医師会佐倉地区）
⑫佐倉市赤十字奉仕団	⑫佐倉東部地区連合協議会
⑬佐倉市体育協会	⑬社会福祉法人佐倉市社会福祉協議会
⑭佐倉市手をつなぐ育成会	⑭手をつなぐ・さくら
⑮佐倉市 P T A 連絡協議会	
⑯佐倉市民憲章推進協議会	
⑰佐倉市民生委員・児童委員協議会	
⑱佐倉第三工業団地連絡協議会	
⑲志津北部地区代表者協議会	
⑳千葉県オストミー協会「佐倉の会」	

※公益社団法人佐倉市シルバー人材センターが同日に2名の参加。

また、さくらケアマネ協議会と佐倉市手をつなぐ育成会（網掛け部分）が両日とも参加。

そのため、2日間合計で32団体35名の参加となります。

【 実施手法 】

参加団体を業種の枠にとらわれず班分けし、団体活動の課題や解決策・連携できることについて意見交換を行いました。各班には行政職員が司会進行として参加し、会の最後に意見交換の内容を発表し、全体共有を行いました。

■ 基本的な流れ

① 各団体が抱える課題の紹介、それへの対応策についての意見交換

各団体に、それぞれの団体活動上の課題や課題解決に必要なことについて、お考えを話していただき、解決に向けて、お互いに協力できることや、行政が担うことについて、意見交換を行います。

② 意見交換の成果の取りまとめ

①の意見交換を通じて共有が図れた課題をまとめ、課題を解決するために今後必要な『行政の役割』・『団体の役割』を取りまとめます。

③ 発表、全体共有

最後に、各班の行政職員が発表を行い、全体共有を行います。

【 アンケート調査 】

意見交換会に先立ち、以下のとおりアンケート調査を実施しました。

■ アンケート調査の概要

調査名称	佐倉市まちづくり団体 総合計画アンケート調査
対象団体	福祉、産業、環境、教育、土木、健康、地域関係の 60 団体
回答団体	福祉、産業、環境、教育、土木、健康、地域関係の 46 団体
調査期間	平成 30 年 10 月 31 日（水）～平成 30 年 11 月 16 日（金）
調査内容	団体活動上の課題、佐倉市の今後の 12 年間のまちづくりに向けた提案等（自由記述式）

■ アンケート調査の結果

団体活動上の課題について、半数近くの団体から人手不足・担い手不足が挙げられました。そのうち、4 分の 3 の団体からメンバーの高齢化をその要因として挙げられました。また、他団体や行政との連携を課題として挙げる団体も 10 団体と多く見られました。

佐倉市の今後の 12 年間のまちづくりに向けた提案について、行政としてできることとして、広報・P R 活動の充実、他団体・市民との交流の橋渡しが多く挙げられました。研修会の実施、運営支援（財政支援・人員確保）を挙げる団体も一定数見られました。

■ 各団体から回答が多かった項目（抜粋）

団体活動上の課題	回答団体数
人手不足・担い手不足	21
うちメンバーの高齢化を要因とするもの	16
他団体・行政との連携	10
資金不足	4
メンバーの負担増	3

佐倉市の今後の 12 年間のまちづくりに向けた提案（行政としてできること）	回答団体数
広報・P R 活動の充実	10
他団体・市民との交流の橋渡し	9
研修会の実施	7
運営支援（財政支援・人員確保）	6

※自由記述による回答であり、複数の課題や提案を記述した団体やその他の記述をした団体があります。

そのため、各項目の回答団体数合計と調査全体の団体数合計（46 団体）は一致しません。

意見要旨

【12月10日】

A 班

【団体や市の課題】

団体の課題は、少子高齢化による人材不足。

市の課題は、観光資源や住環境、道路などのインフラが不十分であること。

佐倉市はポテンシャルのあるまちだと感じているが、それを活かしてきていない。全国的にみて佐倉市は極端な人口減少局面にはなく、住みごちもいいので、道路等のインフラを充実することから、まちの活性化を図っていくといいのではないかと。

【課題解決に向けたそれぞれの役割】

●行政の役割

実際にまちの活性化を推進していくためには行政だけでは難しい。行政の役割は、民間団体の橋渡し、コーディネートで、例えば今回のような団体意見交換会は異業種間の横の連携促進が図られるのでよい。点が線、線が面となる連携づくりを進められるとよい。

●団体の役割

国立歴史民俗博物館や長嶋茂雄氏の出身地であることなど、まちのポテンシャルはあるが、宣伝・案内に改善の余地がある。観光資源の活用や住みごちの向上（近所づきあいや見守り活動など）は、市民や団体が推進していく必要もある。

B 班

【団体や市の課題】

団体の課題は、高齢化による担い手不足。少子高齢化が進む中、リタイヤ直後の65歳～74歳の活躍がなければ、市内の様々な活動がもたなくなってきた。しかし、65歳～74歳の実態を把握できていないため、どのようにアプローチしていけばいいのかが難しい。

【課題解決に向けたそれぞれの役割】

●行政の役割

・意識調査、実態調査の実施

リタイヤ直後の市民が何を考え、何をしているのか、その意識や実態を把握する必要がある。

- ・地域ポイント制（ボランティアポイント）の実施

地域を維持していくためには、ボランティアの促進が必要だが、なんらかのインセンティブが必要であり、地域ポイント制の導入が必要である。ポイントは、他人へ譲渡可能にすれば、他人のために有効活用する人も出てくるのではないか。

- ・自治会長の任期を2年以上に

団体が自治会と連携して何か（例：防犯カメラの設置）しようとしても、自治会長の任期が1年ではなかなか進まない。団体と地域の連携を進めるためには、自治会長の任期を延ばす必要がある。

- ・団体の連携のマッチング

一つひとつの団体だけではどう連携しているかわからないので、市のホームページなどで団体の活動内容を公開するなど、団体間のマッチングがしやすい環境をつくれれば、連携が進むのではないか。

●団体の役割

- ・広報・情報発信の充実

活動内容を目にしてもらえれば、加入促進のきっかけになる。

- ・加入しやすい雰囲気づくり

内実を知らない人には、地域活動は敷居が高く見えるのではないか。たとえば、スクールガードであれば「絶対に子どもを守らなければならない」と思われているので、『あいさつ運動』や『ながら運動』（犬の散歩をしながらの見守りなど）として推進してみてもどうか。

- ・参加を促すきっかけづくり

イベントなどをきっかけに参加してもらうことが重要。参加率の少ない男性に地域へ関わってもらうために、『お父さん会』を組織するなど、工夫することが必要。

- ・『向こう三軒両隣』の再構築

ゴミ出しや草取り、留守番など、それぞれができることを行う『お助け隊』を組織してはどうか。

C 班

【団体や市の課題】

団体の課題は、少子高齢化による担い手不足、団体間の連携が不十分であること。団体の抱える課題解決のためには他団体との連携が必要であるが、知り合う機会がなく連携するのが難しい。

【課題解決に向けたそれぞれの役割】

●行政の役割

- ・団体間の橋渡し

個人や団体単位では、どの団体と連携可能かなかなかわからない。団体間の橋渡しが、行政ができる役割なのではないか。

- 団体の運営支援

団体の役員が高齢であることも多く、P C 操作など運営に必要な事務の支援やアドバイスをしてほしい。

- 個人情報の取扱いに係る支援

個人情報が必要な活動は、行政の支援がなければできない部分も多いので、支援してほしい。

- 行政組織内の横の連携の強化

団体活動の中で、行政の相談窓口がわからない場合がある。行政組織内の横の連携を整え、ワンストップ化を図ってほしい。

● 団体の役割

今回の団体意見交換会で、他団体と連携する意思のある団体が多いことがわかった。今後、市内で活動する様々な団体が集まる機会を行政が設けた場合、団体側も積極的に参加し、連携に向けて取組んでいくことが重要である。

D 班

【団体や市の課題】

団体の課題は、人口減少に伴う会員・担い手不足が発生していること。大きな要因のひとつとして、団体活動と一般市民の接点が少ないことが考えられる。

【課題解決に向けたそれぞれの役割】

● 行政の役割

市内に 200 以上ボランティア団体があり、会員不足が進む中、うまく声をかけコーディネートする役割を行政が担うべきではないか。

また、市民が参加しやすい仕組みを制度としてつくることで、参加促進を図ることが有効ではないか。

● 団体の役割

団体としては、広報の手法を工夫していく必要がある。多くの市民に活動内容を伝え、実際に参加してもらえるようにするため、例えば、ホームページを見られない高齢者などにも活動内容が伝わるように、資料や案内を考えていくことが重要である。

【12月12日】

A班

【団体や市の課題】

団体の課題は、人手不足と役員・会員の高齢化。新規加入者がいないだけでなく、団体内の構成員も高齢化している。同じ人が、いくつもの団体をかけもちしているような状況もみられる（地区社協、自治会、町内会、民生委員、PTA等）。

【課題解決に向けたそれぞれの役割】

●行政の役割

- ・自治体への加入促進：自治会の活性化のためには、行政の広報も重要である。任意加入というイメージを強調し過ぎることなく、プラスのイメージを持ってもらえるような広報をしてほしい。
- ・災害時対応：災害時などの緊急時に、避難所、消防、警察、医療等の橋渡しを行う。
- ・横断連携プロジェクトの実施：行政が縦割りの体制では多様な課題への対応が難しいため、横断的に連携して取り組むプロジェクトチームを創設することが必要ではないか。

●団体の役割

- ・地域包括ケアシステムの構築
- ・介護と医療の連携
- ・災害時対応：災害時などの緊急時に、避難所、消防、警察、医療をつなぐ役割は、行政や専門職だけではなく、自治会長が担うことも考えられる。

B班

【団体や市の課題】

団体の課題は、団体活動など、地域を支える様々な活動の人手が不足していること。

市の課題は、地域の関係性が希薄になっていること。みんなが幸せになる社会の実現を目指し、こうした課題に取り組んでいく必要がある。

【課題解決に向けたそれぞれの役割】

●行政の役割

- ・団体運営への支援：例えば、自治会長は1年交代の場合、課題への取組ができないため、行政が組織に入ってアドバイスをしてほしい。

- ・団体間の橋渡し：例えば、商店街と学校をつなぎ、学校に活性化策を提案してもらうなど、団体間の連携を促進すれば、団体でできることが増える。
- ・行政の相談窓口の一元化：分野ごとの縦割りではなく、組織として情報共有を行い、横断的に対応する体制を構築してほしい。

●団体の役割

団体としては、活動内容の地域への啓発に取り組んでいく必要がある。

また、小学校などと連携する取組を行う際には、子どもからのアイデアを積極的に採用する。子どものための活動ということであれば、趣旨が理解されやすく、広く市民の参加も進むのではないか。子どもたちも、自分たちのアイデアが形になれば、地域への愛着が深まると思う。

障がい者が地域で参加できるような取組についても、考える必要がある。福祉まつりなどで意識を高めていくことが重要である。

C班

【団体や市の課題】

団体の課題は、役員の高齢化と後継者不足が目立っていること。事業所においてもそれが顕著で、事業承継が困難になっている。60～70代が役員を中心ではパワーダウンが否めないし、また、同じ人が長く役員を務めていると、新しいことになかなか取組んでいけない。

【課題解決に向けたそれぞれの役割】

●行政の役割

- ・体験福祉教育の実施：身近に助けが必要な人がいることを体験することで、将来的な担い手の育成につながると思う。たとえば災害時に、主に地元にいるのは中学生と考えられるが、実際に何ができるのか、車いすなどを使って、高齢者や障害者などの手助けをするような体験プログラムを実施するのもいいのではないか。
- ・地域ポイント制度の導入（ボランティアの仕組づくり）：ボランティア活動の促進を図るため、地域ポイント制の導入など、メリットをつけて参加のきっかけをつくる必要があるではないか。
- ・市民カレッジ卒業生の活動促進：卒業生の同期同士はつながっており活動も盛んであるが、それを継続するための縦の組織的なつながりを構築することが必要ではないか。

●団体の役割

- ・団体リーダーがリーダーシップを発揮する：若い世代の市民が集まる場を作り、意見を聴くことが重要である。例えば、商工会議所では「次世代の会」を組織し、未来の佐倉市のために何ができるか意見交換を行っている。

- ・ゆるやかなつながりの構築：現在、特に若い世代は、なかなか組織にまざらず、ゆるやかにつながってほしいように感じる。組織に入らなくても情報は入るし、例えば、災害時にSNSなどを活用して一人で行動できる人が多い。しかし、いざというときに地域にどのような人がいるかを把握し、不測の事態に対応するためには、何かしらのつながりは必要であり、今よりゆるやかなつながりとなることを念頭とした組織づくりを考えていく必要がある。

【団体意見交換会を通じて】

事前アンケート結果も踏まえ、人材不足や高齢化による活力の低下という大きな課題を中心に据え、意見交換を行いました。人材不足は多くの団体に共通する課題でしたが、こうした多様な団体が話し合うことで、改めて深刻さを認識したという声も聞かれました。

人口動向は、すぐに大きく改善に向けて転換するものではなく、市民としてはまず、現有の地域資源をもとにどのような対策をしていくかを考えていく必要があります。人口減少が継続する状況下においては、個別の団体だけでは対応が難しい課題も多いことから、今回、特に連携ということ 키워ドとして、これまで接点のなかった団体が話し合える機会を設けました。

全国的にも先例があまりない取組でしたが、当日は活発な意見交換が行われました。

議論としては、多くの団体が、行政だけで全てを背負うのは難しいという認識を持っており、行政が果たすべき役割は、コーディネートやマッチングの機会創出であるという意見が多く聞かれました。

一方、団体としても、活動内容の発信や今回の会のようなマッチングの機会への参加を積極的にを行い、持続的・自律的に課題解決に取り組んでいく必要があるという意見が多く聞かれました。

【参加者の感想より】

意見交換会後のアンケートでは、ほぼ全ての参加者が、今回の団体意見交換会を有意義と回答しており、他団体の活動実態や課題を知るよい機会だったという記載も多く見られました。また、今後、業種を越えた団体間の連携が重要である旨の記載も多数見られ、今回の会のねらいや手法についてはそうした課題意識に対応できるひとつの手法として、一定の効果のあるものと考えられます。

意見交換会の中での指摘のとおり、業種間の横断連携については個別の団体だけでは難しい側面もあり、今後も効果的な手法について考えていく必要があります。